

ひまわり通信

日本共産党控室
市川市八幡1-1-1
334-1111 (18219)



廣田 のりこ

日本共産党
市川市議員

ひろた徳子



2024. 10月 No. 103

9月議会 私が代表質問をしました

9月6日、代表質問を行いました。
○環境行政について

次期クリーンセンターにおけるPD方式の採用について

令和13年1月稼働を目指している時期クリーンセンターは、設計から建築、運営までを一括して行うPD方式ですが、20年間という施設運営期間はあまりにも長いと感じています。さらに外部のチェックが行えるのか、長期にわたる運営事業が適正に行われるのか、市はどのように管理をしていくのか、伺う。

答弁 20年間の安定操業を実現するため、運営事業者の参加資格要件として、同等規模施設の運転管理業務の受託実績があること。



・総合評価落札方式による一般競争入札とし、運営体制等も審査したうえで、確実かつ要求水準以上の履行が行える事業者を選定する。

・運営時は、事業者からの定期報告に加え、市による財務状況のモニタリングを毎年、施設運営状況のモニタリングを四半期ごとに行うことで、適正な施設運営が実現できるように管理する。

・市の管理体制としては、モニタリングだけでなく、所管部門が適宜協議や指導などを行いながら、連携して事業にあたることを想定している。

○市民にとって便利な行政窓口となるよう、行徳支所の夜間窓口復活させる考えはあるのか、伺う。

答弁 行徳支所で取り扱う業務の中には、第一庁舎の関係各課と連携を要する業務もあり、第一庁舎の関係各課においても、対応する職員の配置が必要となり、人員配置や経費面などの課題が生じる。

行徳支所単独での水曜窓口の再開は難しい。これまでの水曜窓口では、証明書の交付が多い傾向にあったことから、現在、行徳支所でも月1回、土曜日にマイナンバーカード窓口を設けている。今後は、更なる普及に努めるとともに、カードの活用方法の周知を図っていく。

夜間に各種届出等が必要な市民の方に対しては、平日は午後8時まで、土曜日は午後5時まで窓口業務を行っている市川駅行政サービスセンターをご案内する。

○すべての児童生徒に学びを保障する考えについて

不登校児童生徒を拡大させない取り組みについて、伺う。

答弁 不登校児童生徒支援マニュアルを作成し、毎年教職員に配付している。今年度は、児童生徒の不登校の兆しをより事前に察知し、適切な支援につながるよう、新たに担任用チェックリストを追加し、これに基づき市内全ての公立学校で取り組んでいる。

質問 様々市の取り組みは理解したが、全てを行なっていれば、毎年増えるということにはならないかと思えます。不登校の児童生徒さらに別の対応を考えているのか、伺う。

答弁 「学びの保障」の観点から、ITCを活用したオンライン授業や、「サポートルームふれんど市川」の運営、各中学校の校内教育支援センターの運営、来年度小学校において全校開室を目指す「スペシャルサポートルーム」など、不登校児童生徒が個々の状況に見合った支援を選択することができるよう、不登校支援の対策に努めていく。



9月議会補正予算に反対しました

市川市では、今9月議会に、令和7年度分の航路浚渫工事費1億5400万円等の補正予算が提案され、可決されました。

市は、補正理由を「本工事は、漁業事業者が利用している市川漁港から浦安沖に至る航路が、経年による砂の堆積によって浅くなっているため、大型漁船は干潮時に入港できず、沖合で潮待ちを余儀なくされる等、漁業活動に支障が生じている。航行の安全性の向上および漁業活動の効率化を図るため、浚渫するものである。なお、浚渫した砂は塩浜2丁目の親水干潟事業地活用することを予定している」としています。

日本共産党市川市議団は、浚渫事業について反対するものではありませんが、浚渫砂の塩浜2丁目親水干潟事業地への活用には反対です。今後、市は補正予算可決後、県に対

し、浚渫下土砂を塩浜2丁目に活用する許可を求める申請をすることとなっています。市議団は、県に対し、市川市からの申請を許可しないように要望します。



いよいよ総選挙が行なわれます

日本共産党は、国民の暮らしと平和を守るために頑張ります。現市川浦安地区委員会委員長。市民と野党の共闘の出発点である千葉5区では、桜井雅人予定候補が立候補します（元市川市議、守るために頑張ります。「安保法制」の廃止、憲法9条を

【制度解説】 投票は2回あります。

- ・ 比例は、「政党名」を記入します。
- ・ 小選挙区は、「候補者名」を記入します。

無料法律相談

次回11月12日(火)午後3時より
八幡市民会館にて

1人30分、事前予約が必要です。
334-1111 内線18221
までお電話ください。



「いっども地域交流館」

ぴあぱーく妙典に建設中の、「いっども地域交流館」愛称・ぴあぱーく妙典COCO(ココ)は、令和6年度中に共有される予定です。

ひとりごと：今振り返ると、長い夏だったなあと思います。そんな中、異気象、豪雨で家が流され、途方に暮れる間もなく家の片付けをしている姿がテレビで流れました。胸がいつぱいになります。能登地震から5カ月してやっとライフラインが戻って来たばかりだったそうです。今年の市民アンケートでは、災害対策、どんなものを備蓄しているかの問いに、水・食料・子どものおむつ・生理用品が多かったように思います。簡易トイレは、値段も高く一番の必需品だとわかっているものの、購入には至っていないようです。行政の役割が問われるのは、非常時だと思えます。自助努力ばかり推進するのはなく、しっかり公助で市民を守るよう、日本共産党は頑張ります。